

2022年2月2日、3日 中央分水嶺トレイル 朝倉

それは突然だった。

16:00 扉峠着。予定より2時間遅れ。ようやく扉峠にたどり着き扉温泉への道を慎重に探す。何もない雪面にスノーシューを付けて歩き出した。雪は柔らかく潜るので歩きにくいし疲れる。温泉への道はこの先すぐに三城牧場への道と分かれ左に分岐するのでそこを注意する。路上の雪面には鹿の足跡が延々と続いているのでそれを利用すると多少なりとも楽になる。峠の看板に扉温泉まで11キロとあったから雪道だがずっと下り坂だから3時間と見込む。当然暗くなるのは覚悟した。

林道は行けども行けども落葉松に囲まれた同じ風景が続くだけだ。倒木があり、落石があり路肩の崩落さえあり長く使用されていないようだ。峠の標識に扉温泉への表示があったから当然車の通行が無雪期はできるものと思っていたから一抹の不安に駆られたがこの道しかないはずだから信じて下り続ける。

全体のほぼ半分くらいと思われるあたりで峠ではだめだったが電話がつながったので留守本部の辻さんと予約してある宿に連絡を入れた。やがて暗くなるので眼鏡を替え、ヘッドランプを用意して更に下り続けた。あたりは真っ暗になり一か所にだけ県道67号という文字がランプに浮かんだので宿に聞いてみたら間違いのないといわれ安堵する。木間越しに宿の明かりと思われる光も見え隠れしたがまだ距離はありそうだった。空腹感は多少感じたがザックを下すのが面倒なので何も食べずにそのまま歩き続けた。またこの林道に入ってから雪も口に入れていなかった。そしてそれは突然だった。

前日、やはり今と同じように暗い中ヘッドランプを点けて長門牧場からスノーシューをはいて歩き出した。牧草地を外れるあたりから明るくなりはじめその一角に小さな中央分水嶺トレイル長門牧場、美ヶ原38キロと書かれた立札がありその示す方向に行くと女神湖の方に向かって林道があったのでこれを行くことにした。雪は豊富にありその上柔らかいので予想よりスノーシューが潜って歩きづらい。女神湖の方が標高が高いので当然上り坂となっている。悪戦苦闘する中早々に女神湖から先はトレースのない部分は道路を歩くことに決める。大汗かいてようやく女神湖の一角の別荘地にたどり着いた。

国道の積雪のないアスファルトの路面は足裏への負担が大きい。2時間強歩いて白樺湖へ着いたがやはり大門峠から先もトレースはない。ビーナスラインを少し上って右から車山へ続く斜上する登山道をとる。ここもトレースはないが仕方がない。表面は固いがモナカ状態のため頻りに踏み抜き歩きにくいことこの上ない。最後のピークの上に大きな雪庇が張り出していて登山道はその下を通っている。大丈夫だとは思ったが念のためその手前の斜面を高巻くことにする。リスクに比べ支払いは大きい。苦勞して斜面を登る。上部になると傾斜が増してスノーシューが使えなくなったので脇の樹林の積雪の少ないところをツ

ボ足で滑落しかけながら登り切った。

雪庇のあるピークからはなだらかな斜面がスキーゲレンデにかけてひろがっており強風のためか雪面が固くて非常に歩きやすくなった。平日のためまばらにしかいないボーダーやスキーヤーが滑るゲレンデの脇を車山乗越までゆっくりと上った。西からの強風が吹き抜ける雪原をトレースを外さないように南の耳、北の耳を経て誰にも会うこともなく最終のゼブラの山頂に到達した。あとはここを下って風を避けてテントを設営するだけだった。

翌日は強風に明けた。テントの撤収に手間取るなどして1時間遅れの出発になり後の行動に影響することになった。霧が渦巻く中、八島湿原には年配のカメラ愛好者が数名いた。鷲ヶ峰への登路は今回の行程中最もはっきりとしたトレースがついていたが反対斜面の和田峠側はほとんど消えてなくなっていた。積雪量も多くなりほとんど下りだったから苦労はなかったがここで1時間多く消費してしまった。

和田峠は最後のピックアップポイント。ここで中止にするかどうかしばし迷う。宿に電話を入れたが電波の状態が悪く繋がらない。ここから扉峠までビーナスラインを歩くことにして最終地点扉温泉まで歩ききることに決めた。幸いスノーモービルの通過した跡があるので沈まずに歩くこともできた。途中出会った人（強風のため三峰の下山にここを使ったようだ。）に尋ねたらずっと付いているというので安心できた。鷲ヶ峰の下りあたりからキリが晴れてきて歩いていると日差しが暑いくらいで風もそれほど当たらない。

このトレイルでゼブラと三峰山のピークはどうしても外せなかった。それで道と稜線が狭まっているところから稜線に上がってみた。ものすごい横風が吹いている。山頂まで1時間ほどの距離か。時々強風に体を横に持っていかれながらもなんとか山頂までたどり着いた。はるかに扉峠を俯瞰する。遠い。さらにそこから左に下る林道、その先にある建物らしきが扉温泉か。こちらも長い距離だ。この山頂から先はトレースがない。すぐに引き返し、三峰茶屋まで下りる。

三峰茶屋から先もスノーモービルの跡はついており一安心だが道路の端まで達している吹き溜まりがいくつもある。そういうところはスノーシューなしでは潜るか危惧したがそんな個所もスノーモービルの跡をたどれば全く問題なかった。一か所雪崩のデブリが道をふさいでおりどうやって越えようかと心配したが近づいてみると見上げるようなところをスノーモービルは越えており難なく越えることができた。時々雪を口に含みながら歩く。幸いにも扉峠へはほとんど下りなので助かる。16:00 扉峠着。予定より2時間遅れ。

それは突然だった。疲労感には自覚していなかったにもかかわらず足が突然とまってしまって動けなくなった。ザックを下ろしてとりあえず休むことにした。ガードレールに腰かけてボーっとしていた。何か食べようと思い干しイチジクを口に入れたが飲み込めず吐き出してしまった。ポケットにあったラミーの一包みを口に入れた。咀嚼がうまくいかない。自分の口でないような。それでも何とか食べてテルモスにわずかに残っていた湯とも水ともつかない液体を流し込んだ。どのくらいそこで休んだのか。そんなに長くはなかったと

思うのだが。もう一包みラミーを口に入れ立ち上がろうとするがうまくいかない。もう一度やってみる。両手のストックにすがり、不思議な力に背中を押しもらいよろよろと立ち上がる。一歩出してみる。心もとないが何とか歩けそうだ。真っ暗な林道をふらつきながら再び歩き出した。ザックはそこに置いたままで。Uの字のカーブが現れたので曲がった。倒木が多い。落石もある。雪は道の半分ほどが溶けているような状態だった。またUの字のカーブが現れた。それを曲がると前方に明かりが見えた。心配して迎えに来てくれた宿の人たちだった。遭難の入り口を覗いた体験であった。

宿に着いて玄関に座ったら電話が来た。谷内さんからだった。体力が回復するまでそこに座らせてもらった。お茶がおいしかった。5杯もお代わりをした。女の子の持ってきてくれたウキスキー入りの紅茶はことのほかうまかった。宿の人たちの親身さが身に染みた。

翌朝、ザックを回収に行ったら宿から林道を30分ほど登ったところにそれはあった。

コースタイム：2月2日 長門牧場 5：50—8：45 女神湖—11：00 大門峠—14：15—車山乗越—15：50 ゼブラ山—16：15 八島湿原

2月3日 八島湿原 7：00—8：30 鷲ヶ峰—10：30 和田峠—13：50 三峰山—16：00 扉峠—20：00 扉温泉